

双葉郡教育復興ビジョン推進協議会  
「ふるさと創造学教員研修会」実施報告

2018年5月22日

1) 実施概要

日時： 2018年5月8日（火）14:00～16:30

場所： ビッグパレットふくしま 研修室（郡山市南2丁目52番地）

テーマ： 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～ふるさと創造学を中核として～

講師： 國學院大學人間開発学部初等部教育学科 教授 田村学先生

プログラム：

| 時間    | 内容                                 |      |
|-------|------------------------------------|------|
| 14:00 | 1. 開会挨拶                            | 5分   |
| 14:05 | 2. 講義<br>田村学・國學院大學人間開発学部初等部教育学科 教授 | 140分 |
| 16:25 | 3. 閉会挨拶                            | 5分   |
| 16:30 | 閉会                                 |      |

2) 参加者

| 所属      | 人数(名) | 詳細             |
|---------|-------|----------------|
| 浪江町     | 4     | 小学校(3) 中学校(1)  |
| 葛尾村     | 3     | 小学校(2) 中学校(1)  |
| 双葉町     | 1     | 小学校(1)         |
| 大熊町     | 7     | 小学校(3) 中学校(4)  |
| 富岡町     | 9     | 小学校(6) 中学校(3)  |
| 川内村     | 2     | 小学校(1) 中学校(1)  |
| 檜葉町     | 3     | 小学校(2) 中学校(1)  |
| 広野町     | 2     | 小学校(1) 中学校(1)  |
| ふたば未来学園 | 4     |                |
| 福島県     | 5     | 県立高校改革室        |
| その他     | 4     | ビジョン推進協議会関係者、等 |
| 合計      | 44    | (名)            |

3) プログラム内容・要旨

1. 開会挨拶

今年の福島県教育委員会のキーワードである「活用力」とは、アクティブ・ラーニング（主体的な学び・対話的な学び・深い学び）に結びつくもの。本日講師としてお越しいただいた田村学先生は、

昨年まで文部科学省の視学官をされていた。双葉郡教育復興ビジョン推進協議会には発足当時から携わっていただいている。きっと先生方にとって有意義な話を聞けると思うので、ぜひ県で示している活用力とリンクさせながら聞いてほしい

## 2. 講義（田村学・國學院大學人間開発学部初等部教育学科 教授）

### ➤ 「ふるさと創造学」への期待

ふるさと創造学サミットをみると、子供たちが全面に出てきており、自分の言葉で表現できるようになった。学習がより探求的になり、学びが着実に定着していることがわかる。

全国的に、探究的に学んでいることと学力には相関がある。これまで中学校は小学校よりもその傾向は緩やかであったが、平成 29 年度から劇的に変わり、中学校でも授業改善がされているものと推察される。今回の学習指導要領の改訂は、探究モードに変革していくことである。それを双葉郡では先んじて「ふるさと創造学」に取り組んできた。さらにブラッシュアップするには、1 時間 1 時間の授業の質を上げること。また、「ふるさと創造学」から、各教科へと広げていってほしい



### ➤ 深い学びへの理解

育成すべき学力を実現するうえで、キーワードになるのは、主体的・対話的で深い学びである。主体的な学びと対話的な学びはイメージのしやすいものだが、深い学びは分かりづらく安易に使われる傾向がある

深い学びとは、一度聞いただけでは「なるほど」と腑に落ちないことも、ひとつひとつの知識を確認し、様々な知識がつながり合うことで腑に落ちる。知識や技能が関連付いて構造化され、駆動するイメージを持っていただきたい

### ➤ 教師力の熟達化と授業改善

子供たちの「主体的・対話的で深い学び」を促進するために、教師は、子供の発言を丁寧に聞いて思いや考えを解釈し、それを授業のねらいと照らし合わせて、瞬時に板書や発問といった振る舞いをするのが大切。できなくても、意識して授業を行うことが教師の熟達化への一歩

授業改善には、プロセスの充実を図るとともに、丁寧なリフレクション（振り返り）とインタラクション（対話）を取り入れ、自ら学び、共に学ぶ状況を生成していくことがポイントだ

### ➤ カリキュラム・マネジメントの充実

育成する資質・能力を各校の学校目標等に基づいて定めることができ、学校の特色・子供の実態に応じオリジナリティが出せる。学習内容（何を学ぶのか）と学習活動（どのように学ぶのか）は、この育成したい資質・能力と照らし合わせて計画する必要がある。単元配列表では、各教科等間の相互の関連付けや教科横断的な学びの結びつきを捉えて描くことが重要

### 3. 閉会挨拶

今日は深い学びという視点でお話いただいたことが、活用力に結びつけることができたと思う。先生方にはぜひ子供の「わかる」に力を注いでいただきたい。双葉郡は過渡期にある。多面的で重層的な学びとは、少人数学級が多い双葉郡の学校では相反するものかもしれないが、教師同士が連携することで多面的で重層的な学びに代わるものができるのではないだろうか

以上